

迷いの先に見つけた、自分らしい道

型にはまらない女性起業家の物語——

「ここにネイルサロンがあるの？」——恐る恐る産業支援センターみのわ 創業支援オフィスの茶色い扉を開けると、そこには外観の重々しい感じとは全く異なる、白を基調にした清潔で明るく温かな空間が広がっていました。

部屋の中から「ハイ」と明るい声とともに、こちらを振り返ったのは《定額ネイルサロン Tsuzuku nail》のオーナー黒河内彩香(くろこうちあやか)さん。

優しい色味の絵画が飾られた壁に、パステルカラーの柔らかなクッションを備えたサロンの雰囲気と、黒河内さんの飾り気のないたたずまいに触れていると、イメージするただ華やかなネイルの世界というより、人と人との温かな関わりの場であることを感じます。今回は、黒河内さんのネイルサロン開業に至る歩みについてじっくりとお話を伺いました。



常識を飛び越えた一歩が全ての始まりだった

Q 経歴を教えてください。

実は、高校2年のときに中退しているのです。そして、たった一人でイギリスのロンドンへ渡りました。

ファッションへの興味と憧れから目指したロンドンでした。

若さゆえ怖いもの知らずでしたが様々な考え方に触れる機会を与えて貰えたことで、私の興味は人間の根源にある「心理学」へと変化していきました。

海外に渡り、文化や環境、人種の違う色々な人と出会えたことが、私のひとつの転機となりました。

その後、1年の留学を経て、大学検定(現、高等学校卒業程度認定試験)を取得ののち、千葉県にある大学の心理学科へと進学しました。

”普通”に収まらない。だから、自分で創る。

大学を卒業した後、社会人へと進む段階に直面した時、一般的に”普通”と呼ばれている就活や社会生活に馴染めない自分に気づきました。そしてその答えを探すのにとても長い時間がかかりましたが「自分の生きる世界は、自分で創ってみたい」という素直な気持ちに気づくことができ、私は「普通」と呼ばれがちな、大学卒業→就職という道を選ばず「起業」という道を選んで生きていく人生を選んだのです。

「楽しそう」から始まった一歩

Q なぜ、ネイルサロンをしようと思ったのですか。

「Tszuku Nail」は「全てのアートが定額制」です。定額制にしている理由はいくつもありますが、一番に「我慢をせず好きなものを選ぶ体験をして欲しい」という思いがあります。

ネイルサロンっていくらかかるかわからないから行くのも勇気がいるし、例えば使う材料を変えると一気に値段が上がってしまう。値段が上がると、それを気にして「やりたくても我慢」してしまいます。優しい女性だからこそ、家でも会社でも、自分より「家族や他人」、自分より「お金」を優先してしまって自分のことは後回し…。そんな女性が「どれでも気にせず好きに選べる」という場所やサービスをネイルを通して提供しています。

支えてくれる人たちの存在

Q ご家族やスタッフとの関わりについて教えてください。



現在、14歳の娘がいます。娘は既に将来やりたいことが決まっています。嬉しいですね。でも、「将来やりたいことがある」というのは大切ですが、それよりも、自分がやりたいことを信じて、考え、行動し、間違えながらも少しずつ進んでいくことに価値があると思っているので、娘の挑戦を応援しています。

人は決断をすると、不安がワクワクに変わります。チャレンジをしたら、挫折や失敗の回数はもちろん増えますが「自分を信じて進む」その気持ちを大切にしています。迷ってるときって不安が大きくなります。あくまでも私の場合はですが「迷っている」ということは「チョイスのテーブル」に乗っているということ。

私は、迷っているなら、とりあえずやってみることに決めています。

やるって決めると、不安って案外ワクワクの方にベクトルが変わることも少なくないと思います。

誰でも最初の一步に怖さがあります。特に母親や妻など、責任ある“役割”が多い大人ほど、踏み出すのが怖くなるのは当然だと思います。

でも、そんな時「自分を信じて」勇気を出してもらえたら嬉しいです。チャレンジって大きなことでなくていいと思います。「買ってみたかった野菜や、調味料を買ってみる」というような日常的なことで自分を信じる力を楽しんでいってもらえたらなと思っています。

Q 仕事とプライベートの時間配分はどのようにしていますか？

あえて分けることはしていません。

自分のやりたい時、やりたいように家事をして、好きなように働いています(笑)



これから描く未来

Q 今後について、考えていることを教えてください。

今はこのネイルサロンを通じてできることを一步一步積み上げ、もっと大きく成長させて行けたらと思っています。美容業界に初めて参入したということもあり、美容業界では「あたりまえ」と言われている働き方(土日は必ず出勤する等)の常識が私の中に無いので、スタッフさんのライフスタイルにできるだけ合わせた働き方を模索し、働きやすい環境を作っていきたい。そして、もっとたくさんの皆さまに愛していただけるサロンづくりをして行けたらいいなと思っています。

まとめ

まず、「高校を中退したんです」という言葉から始まったインタビューに、この先どのようなお話が語られるのか期待が大きく膨らみました。

16歳で単身ロンドンへ渡るという大胆な一歩から黒河内さんの人生は、まさに自分の心に従って道を切り開いてきました。周囲の常識や型にとらわれず、自分の感覚を信じて進んできたその姿は、「自分らしく生きたい」と願う多くの人に勇気を与えてくれます。

ネイルサロンを開業した直後には、コロナ禍という大きな試練にも直面しました。しかし、新たな挑戦で困難を乗り越え、再びネイルサロン経営へと歩みを進めました。

現在は「定額制」という分かりやすい価格設定で、ネイルをもっと身近に楽しんでもらいたいという思いを形にしながらサロンを運営しています。また、スタッフの働き方への配慮も忘れません。誰もが気軽におしゃれを楽しめる場所を地域につくりたい——そんな、地域活性化への温かな思いも伝わってきます。

「悩むよりもまずはやってみる」。その言葉には、これまで自分の人生を切り開いてきた黒河内さんの実感が込められています。

不安があっても一歩踏み出すことの大切さを教えてくれます。

自分の感覚を大切にしながら、自分らしく輝く黒河内さん。

その姿は、まさに「箕ル女性」。

顔いっぱい笑顔の奥に迷いも挑戦もすべて糧にしてきた強さがあります。

Tsuzuku Nail は、2026年5月で1周年を迎えました。

「自分の人生は、自分で選んでいい」——そんな前向きなメッセージを体現するように、彼女の歩みはこれからも軽やかに続いていきます。



取材 : 平賀裕子、千田るみ子

構成・執筆 : 千田るみ子

ご協力 : 黒河内彩香さん